

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
伝統文化と環境福祉の専門学校		平成20年1月8日	本間 慎		〒952-1209 新潟県佐渡市千種丙202番地1 (電話) 0259-61-1122		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 新潟総合学院		平成7年3月24日	理事長 池田 祥 護		〒951-8065 新潟県新潟市中央区東掘通一番町494 (電話) 025-210-8565		
目的	高齢化率の高い佐渡市において、待機者減少に向け施設定員の増加が進行しているなか、介護の現場では、質の高い介護が要求されており、専門教育を修得した人材が求められている。この背景のもと、実践的な専門教育と通じ、確かな技術・知識・資格を有し、地域社会の発展に寄与できる介護福祉士を養成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
教育・ 社会福祉	専門課程		介護福祉学科		平成21年文部科学 省告示第21号	-	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2720	1320	780	620	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		22人		3人	6人	9人	
学期制度	■全期: 4月1日～8月31日 ■後期: 9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、授業態度、出席状況、レポート		
長期休み	■学年始: 4月1日～4月3日 ■夏季: 8月10日～8月31日 ■冬季: 12月20日～1月10日 ■学年末: 3月21日～3月31日			卒業・進級 条件	・出席数8割以上(授業科目、総時間に対して8割以上の出席) ・成績評価C以上		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個人面談、保護者会、カウンセリング(カウンセラー)			課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会、ボランティア ■サークル活動: 有		
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 社会福祉法人、医療法人等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成 26 年度卒業者に関する 平成27年5月1日 時点の情報)			主な資格・ 検定等	介護福祉士 Word文書処理技能認定試験 Excel表計算処理認定試験		
中途退学 の現状	■中途退学者 1名		■中退率 4.5%				
	平成26年4月1日 在学者 22名 (平成26年4月1日 入学者を含む)		平成27年3月31日 在学者 21名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)				
	■中途退学の主な理由 健康上の理由						
■中退防止のための取組 個別面談 保護者会 カウンセリング							
ホームページ	URL: http://www.sado-nsg.com/						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

介護実習に関わる授業については、施設と協定を結び、学生の実習をおこなっており、職員から実習指導をしていただいている。学生の評価は、実習前の計画、実習中、実習後のまとめのそれぞれで、クラス担任へフィードバックされ、実習担当者とクラス担任と協議の上、成績評価を行うなど、現場で活用できる力を評価できる教育編成を行っている。また、講義においても、テキストのほか実例として現場の声を取り入れるため、講師派遣を依頼している。

この他にも、関連分野の動向については、教育課程編成委員会の他、関連学会、関連施設、NPO等へ専任教員が積極的に参加、連携することにより、教育課程編成委員会の範囲外での情報の獲得を行っている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名前	所属
後藤 友二	佐渡市高齢福祉課
伊澤 宏二	社会福祉法人愛宕福祉会 新穂愛宕の園
山下 峰生	株式会社クローバー佐渡
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校
橋本 瑞江	伝統文化と環境福祉の専門学校
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校

(開催日時)

第1回 平成27年12月21日 10:00～10:45

第2回 平成28年 2月23日 11:00～12:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

現場に必要な知識、技術について、現場での評価をいたたくこと、また、実際に介護の現場で働く、職員の方々と学生が交流することで、校内だけでは得ることのできない情報や体験をする機会を設けている。また、実習では様々なタイプの施設へ伺い、学生自身の就職活動にも役立っている。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ－(1)	2週間の期間で、高齢者施設などを実習施設として、要介護者コミュニケーションの取り方を中心に実習を行う。	デイサービスセンターなんだい、社会福祉法人佐渡市社会福祉協議会、社会福祉法人大佐渡福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人
介護実習Ⅰ－(2)	高齢者、重度生活障がい者を有する利用者を対象に、様々な暮らしの場を通して、障がいレベルに応じて求められる介護技術の科学的根拠を理解し、基礎的技術を実践的に学ぶ。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑
介護実習Ⅰ－(3)	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画作成—実施—評価といった介護過程を展開し具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福
介護実習Ⅰ－(4)	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、他科目で学んだ知識や技術を統合して具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、社会福祉法人佐渡福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福
介護実習Ⅱ	施設運営のプログラムに参加し、介護サービスについて理解を深める。	社会福祉法人愛宕福祉会新穂愛宕の園、社会福祉法人佐渡寿福祉会、介護老人保健施設さど、社会福祉法人佐渡国仲福祉会、介護老人保健施設相川愛広苑、社会福祉法人大佐渡福祉会

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

就業規則第57条の規定に基づき、専門分野の知識・技術に関する教育・研修、学生指導について必要と認められる教育・研修等への積極的な参加と業務への有効活用を定めている。

専門分野の知識・技術に関する教育・研修については、学会への参加及び発表、専門分野に関わる講習会・講演会への参加を促し、また、情報の収集と提供を行っている。

学生指導について必要と認められる教育・研修、教員の業務能力に関わる教育・研修については、法人内部および外部機関の研修に定期的に参加させている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年5月1日現在

名 前	所 属
後藤 友二	佐渡市高齢福祉課
伊澤 宏二	社会福祉法人愛宕福祉会 新穂愛宕の園
山下 峰生	株式会社クローバー佐渡
本間 慎	伝統文化と環境福祉の専門学校 (事務局)
渡辺 秀則	伝統文化と環境福祉の専門学校 (事務局)
橋本 瑞江	伝統文化と環境福祉の専門学校 (事務局)
後藤 唯	伝統文化と環境福祉の専門学校 (事務局)

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.sado-nsg.com/disclosure.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.sado-nsg.com/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	人間理解と尊厳を深めるとともに、介護における尊厳の保持、自立支援の在り方について学習する。	1・前	30	○			○	○			
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間関係の理解や他者への伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習をする。また、コミュニケーションを図ることは、人間としてお互いが成長しあう機会であることも学ぶ。	1・通	60	○			○			○	
○			社会と制度の理解	今を生きる自分と自分の家族が「社会とどのようにつながっているのか」を考えることを入り口にして、高齢者や障害のある状態の人を含め、すべての人間が人間として生きることを保障されていることを理解する。	1・通	60	○			○	○			
○			人間の安全保障(1) 教育	教育が人間にとってなぜ必要かを考え、障害教育の在り方や学生自らの教育の在り方について学ぶ。	2・前	30	○			○			○	
○			人間の安全保障(2) 地域経済	佐渡の地域社会の現状から、一人ひとりの暮らしの在り方や地域ならではの課題をワークショップを通して学ぶ。	2・後	30	○			○			○	
○			人間の安全保障(3) ホリスティック医学	ホリスティック医学が登場した変遷を理解し、自然・環境の中に生きる人間の在り方を学ぶ。	2・前	30	○			○			○	
○			人間の安全保障(4) 佐渡学・高齢者の生きてきた時代	学生の生活の身近にある佐渡の歴史や地域活動、生活文化を通じた授業を見学や体験を交えて展開する。また、課題学習などを通して、家族や地域の高齢者とのふれあいを深める機会とする。	1・前	30	○			○			○	
○			介護の基本 I 生活の理解と自立	個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき学ぶ。	1・通	60	○			○			○	
○			介護の基本 I 生活の理解と自立	個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき学ぶ。	2・前	30	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護基本Ⅱ－(1) 介護福祉士の役割	他科目での学習を踏まえて、個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき講義・グループワーク・演習を通して学びます。	1・通	60	○			○		○		
○			介護の基本Ⅱ(2) 介護福祉士の役割	介護福祉士の質が問われる中で、専門職としての基本的な考え方や姿勢の根幹となる「尊厳の保持」「自立支援」について学ぶ。	2・後	60	○			○		○		
○			コミュニケーション技術(1) ホスピタリティ・コミュニケーション	コミュニケーションに関する基本的な考え方を理解する共に接し方や信頼関係の形成やチームにおけるコミュニケーション能力を身につけます。	1・前	30	○			○		○		
○			コミュニケーション技術(2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション	相談を受ける際の原則を理解し、共感や信頼関係を学びます。また、コミュニケーション障害の要因を理解し、対応方法を身につける。	1・後	30	○			○		○		
○			生活支援技術Ⅰ(1)	レクリエーションとは何か、何故必要なのかを考察し、様々な対象者に対して社会福祉サービスの視点から、事前評価、計画、実施、事後評価の具体的な方法を学びます。	1・前	30	○			○		○		
○			生活支援技術Ⅰ(2)	利用者の科学的根拠に基づき、ここの心身状態に応じた適切な介護の知識・技術を学ぶ。	1・後	30	○			○		○		
○			生活支援技術Ⅱ－(1)	他科での学習を踏まえて、個々の心身状態に応じた介護の知識技術を科学的根拠に基づき講義・グループワーク・演習を通して学びます。	1・前	60				○		○		
○			生活支援技術Ⅱ－(2)	他科と連動させながら、利用者を科学的根拠に基づき、個々の心身状態に応じた適切な介護の知識・技術を講義と演習を通して学ぶ	1・後	30				○		○		
○			生活支援技術Ⅱ－(3)	それぞれの介護方法の根拠を講義し、実技を行うことで根拠に基づいた介護実践ができるようにし実習を通して実践したことを再度授業で確認する。	2・前	30				○		○		
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			生活支援技術Ⅲ (1)	食事・衣服に関する技能を講義し、グループワーク、実習を通じた具体的な生活支援方法を学ぶ。	1・ 後	30		○			○			○	
○			生活支援技術Ⅲ (2)	障害別生活支援技術の理論と実技の演習を組み合わせ学ぶ事により、様々な心身状況の利用者に対して的確な対応ができる能力を養う。	2・ 前	60		○			○			○	
○			生活支援技術Ⅲ (3)	要介護者の心身機能を理解し、グループワークやレポート、演習等を通して介護実践における考え方や介護技術、また、生活意欲の向上に向けたレクリエーションを体験する	2・ 後	30		○			○			○	
○			介護過程Ⅰ	介護の支援対象者が誰であり、どのような場面であっても、その人の生活課題を理解し、目標を設定し、求められる支援を導く、思考方法を理解する。	1・ 後	30		○			○			○	
○			介護過程Ⅱ	個々の介護のニーズのとらえ方と計画書、アセスメントの作成方法を学ぶ。	2・ 前	60		○			○			○	
○			介護過程Ⅲ	介護を必要とする人の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを実現するために必要な介護の在り方を個別に考察し、計画を立て実施、評価していく一連を理解する。	2・ 後	60		○			○			○	
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習の意義と目的を理解し、介護実習における実習目的・目標を学ぶ。介護実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるために必要な知識・技術態度について学ぶ。	1・ 前	30		○			○			○	
○			介護総合演習Ⅱ	介護実習における実習目標・課題を明確化し利用者、家族のニーズに対する介護福祉士とチームケアにおける役割の理解、人間的な関わりを深めるためのコミュニケーション能力の習得と専門職としての自覚を高める。	1・ 後	30		○			○			○	
○			介護総合演習Ⅲ	個別ケアにおける介護計画の立案に関する基本的技術を習得するために、介護過程の授業との連携を通じた事例研究・演習を行う。居宅訪問実習で在宅生活における介護の重要性を学ぶ	2・ 前	30		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			介護総合演習Ⅳ	個別ケアにおける介護計画の立案に関する基本的技術を習得するために、介護過程の授業との連携を通じた事例研究・演習を行う。	2・後	30			○		○		○		
○			介護実習Ⅰ－(1)	2週間の期間で、高齢者施設などを実習施設として、要介護者コミュニケーションの取り方を中心に実習を行う。	1・前	50				○		○		○	○
○			介護実習Ⅰ－(2)	高齢者、重度生活障がい有する利用者を対象に、様々な暮らしの場を通して、障がいレベルに応じて求められる介護技術の科学的根拠を理解し、基礎的技術を実践的に学ぶ。	1・後	100				○		○		○	○
○			介護実習Ⅰ－(3)	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、利用者ごとの介護計画作成—実施—評価といった介護過程を展開し具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	1・後	100				○		○		○	○
○			介護実習Ⅰ－(4)	個別ケアを実践する為に、ICFの視点から個々の生活リズムや個性を理解し、他科目で学んだ知識や技術を統合して具体的サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	1・後	100				○		○		○	○
○			介護実習Ⅱ	施設運営のプログラムに参加し、介護サービスについて理解を深める。	2・通	270				○		○		○	○
○			発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達を各段階に分けた中から、基礎的知識や発達課題を学ぶ。また、学生自らの成長・発達課題やライフサイクルについて思考し、体験的な学習を進める。	1・通	60			○		○		○		
○			発達と老化の理解Ⅱ	発達と老化の理解Ⅰを踏まえながら、日常生活支援のあり方や老化に伴い健康への課題を抱えた高齢者の保健医療職との連携について学ぶ。また、学生の老年観や高齢者の生きてきた時代を学び理解を深める。	1・後	30			○		○			○	
○			認知症の理解Ⅰ	認知症に関する基礎的知識を習得するため、認知症の原因となる病気やその症状の理解と日常生活への影響として見られる中核症状、周辺症状を理解する。	1・前	30			○		○			○	
合計			科目	単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			認知症の理解Ⅱ	医学的側面から見た認知症の基礎的理解の基に、認知症のある人のこころの変化や生活面への影響について理解し、そのあり方を思考できる知識を身につける。	1・後	30	○			○		○		
○			障害の理解Ⅰ	障害の基礎的理解や医学的側面の基礎的知識を理解し、障害別リハビリテーション介護や連携や協働のあり方、家族支援のあり方を学ぶ。	1・後	30	○			○		○		
○			障害の理解Ⅱ	障害者介護における連携や協働のあり方、家族支援の実例などについて事例を用いて学習を深める。また、障害を持つ人を通じた授業から、当事者のこころとからだの理解をし、介護する上での留意点を学ぶ。	2・前	30	○			○		○		
○			障害の理解Ⅲ	総合的なこころとからだ・障害・発達と老化の理解を含んだ学習をしていく。	2・後	30	○			○		○		
○			こころとからだのしくみⅠ	人間の欲求の基本的理解や尊厳、こころのしくみの基礎やからだのしくみの基礎について学び、日常生活場面におけるこころとからだの変化に気づくことを理解する。	1・前	60	○			○		○		
○			こころとからだのしくみⅡ	人間の欲求の基本的理解や尊厳、こころのしくみの基礎やからだのしくみの基礎について学び、日常生活場面におけるこころとからだの変化に気づき連携のとり方を理解する。	1・通	60	○			○		○		
○			クラスアワー	クラス内の課題、学校イベント等を通じたチーム力の養成を図る	1・通	60	○			○		○		
○			クラスアワー	クラス内の課題、学校イベント等を通じたチーム力の養成を図る	2・通	60	○			○		○		
○			リラクゼーション	心と体に癒しを与えることを目的に、アロマセラピー、リフレクソロジー、トリートメントの知識技術をみにつける。	1・通	30		○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			リラクゼーション	心と体に癒しを与えることを目的に、アロマセラピー、リフレクソロジー、トリートメントの知識技術をみにつける。	2・通	30			○		○		○		
○			就職実務	履歴書作成、入退室マナー等の就職試験に関わる対策と就職にむけた意識づけを行い就活の準備を整える。	1・後	30			○		○		○		
○			就職実務	履歴書作成、入退室マナー面接対策等の就職試験に関わる対策と就職にむけた意識づけを行い就活の準備を整える。	2・通	60			○		○		○		
○			情報リテラシー	社会人として要求される、文書処理技能、表計算処理技能、プレゼンテーション技能の習得を図る。また、資格の取得を目指す。	1・通	120			○		○			○	
○			情報リテラシー	社会人として要求される、文書処理技能、表計算処理技能、プレゼンテーション技能の習得を図る。また、資格の取得を目指す。	2・通	120			○		○			○	
○			校外学習	様々な、社会福祉施設、地域の学校等関係機関でのボランティア学習	1・通	60			○			○	○		
○			校外学習	様々な、社会福祉施設、地域の学校等関係機関でのボランティア学習	2・通	60			○			○	○		
合計			52 科目		2720単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学科80%以上出席、成績評価がすべてC以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。